

# Market Watching

発表日: 2019年10月15日(火)

## 米中一旦休戦で関心は景気と金融政策に(マーケットウィークリー)

～市場は底堅い消費と積極的な金融政策を所望～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
取締役・首席エコノミスト 嶋峰 義清 (TEL: 03-5221-4521)

### 【先週の市場動向】

#### 先週の経済指標・金融政策

発表日	経済指標・会合	結果	コンセンサス	前回	備考
10月7日(月)	—				
10月8日(火)	日本：毎月勤労統計(8月)・現金給与総額	▲0.2%	▲0.2%	▲1.0%	前年比
	日本：家計調査(8月)・全世帯実質消費支出	+1.0%	+1.2%	+1.0%	前年比
	日本：国際収支統計(8月)・経常収支	+21,577	+21,081	+19,999	億円、原数値
	日本：景気ウォッチャー調査(9月)・先行き判断DI	36.9	39.4	39.7	
10月9日(水)	—				
10月10日(木)	日本：企業物価指数(9月)	0.0%	0.0%	▲0.3%	前月比
	日本：機械受注統計(8月)・船電除く民需	▲14.5%	▲8.5%	+0.3%	前年比
	米国：消費者物価指数(9月)・総合	+1.7%	+1.9%	+1.7%	前年比
	・コア	+2.4%	+2.4%	+2.4%	前年比
10月11日(金)	米国：ミシガン大学消費者信頼感指数(10月速報値)	96.0	92.3	93.2	ポイント
10月12日(土)	—				
10月13日(日)	—				



## 主要市場の動向

	直近値	変化			移動平均値		
		1週前比	1月前比	1年前比	25日	75日	200日
10年債利回り							
米国	1.729	+20.0	▲8.3	▲125.7	1.613	1.660	2.063
日本	-0.190	+3.0	+1.5	▲33.0	-0.210	-0.200	-0.107
ドイツ	-0.442	+14.4	+12.2	▲96.0	-0.542	-0.512	-0.187
豪州	1.015	+12.5	▲12.6	▲171.6	1.010	1.085	1.576
株価							
NYダウ	26816.59	+0.9	▲1.2	+7.0	26789	26645	26048
日経平均	21798.87	+1.8	+0.9	▲3.5	21768	21320	21287
ユーロSTOXX50	3569.92	+3.6	+1.5	+11.2	3510	3460	3375
上海総合	2973.66	+2.4	▲1.2	+15.1	2964	2924	2914
為替相場							
ドル/円	108.23	+1.2	+0.4	▲3.5	107.68	107.34	109.07
ユーロ/円	119.71	+2.0	+0.8	▲7.9	118.42	119.17	122.39
豪ドル/円	73.49	+1.6	▲0.7	▲8.0	73.09	73.43	76.15
ユーロ/ドル	1.1042	+0.6	+0.3	▲4.8	1.100	1.110	1.122
商品市況							
WTI	54.70	+3.6	▲1.9	▲22.9	55.76	56.03	57.09
金	1482.7	▲1.6	▲0.9	+21.2	1501	1477	1370

(注) 10年債利回りの変化は金利差 (bp)。その他は変化率 (%)

為替相場の変化は、ドル/円、ユーロ/円、豪ドル/円は+が円安、▲が円高。

ユーロ/ドルは+がユーロ高、▲がユーロ安。

先週 (10/7~10/11) の金融市場は、米中貿易交渉の進展に対する期待から、株などのリスク性資産価格が堅調に推移する一方、金利は上昇した。週末には、一定の進展が認められ、米国側が予定していた対中関税の引き上げは当面先送りされることが決まった。

今週のマーケットは、注目される経済指標の発表などもあり、再び景気に市場の目が向こう。米中貿易交渉については、一旦関税の再引き上げは見送られたものの、本質的な部分での合意は見えておらず、改善の糸口も見えてこない。このため、市場の雰囲気は改善する効果はすでに出尽くしていると考えられる。一方で、足元の景気については製造業部門の減速が明確化しているなかで、非製造業部門の耐久力に焦点が当たる。今週発表される米国の小売売上高の注目度は高い。もっとも、市場予想は堅調さが続いているというもので、先週発表されたミシガン大消費者センチメントも良好な結果だったことから、市場予想を多少下ぶれたとしても景況感が一気に崩れるような自体は想定し難い。このほか、FRBからは足元の米景気や次の金融政策の判断材料となるページブックが発表される。一時ほどではないものの、次回FOMCでも利下げを期待する市場の見通しに合うものかどうか注目される。

## 【今週のマーケット環境】

## 今週の経済指標・金融政策

発表日	経済指標・会合	注目度	コンセンサス	前回	備考
10月14日(月)	中国：貿易統計(9月)・輸出	▲3.2%	▲2.9%	▲1.0%	前年比
	・輸入	▲8.5%	▲6.0%	▲5.6%	前年比
	ユーロ：鉱工業生産(8月)		+0.3%	▲0.4%	前月比
10月15日(火)	中国：消費者物価指数(9月)		+2.9%	+2.8%	前年比
	米国：NY連銀製造業景気指数(10月)	★★	+2.3	+2.0	ポイント
10月16日(水)	米国：小売売上高(9月)・全体	★★★	+0.3%	+0.4%	前月比
	・除自動車	★★	+0.2%	0.0%	前月比
10月17日(木)	米国：住宅着工件数(9月)	★	132.0	136.4	万件
	米国：鉱工業生産指数(9月)	★★	▲0.1%	+0.7%	前月比
	米国：フィテールファイ連銀製造業景況感指数(10月)	★★	+9.1	+12.0	ポイント
10月18日(金)	日本：全国消費者物価指数(9月)・総合		+0.2%	+0.3%	前年比
	・除生鮮食品	★	+0.3%	+0.5%	前年比
	中国：実質GDP(7-9月)	★★★	+6.1%	+6.2%	前年比
	中国：鉱工業生産(9月)	★★	+5.0%	+4.4%	前年比
	中国：小売売上高(9月)	★★★	+7.8%	+7.5%	前年比
	中国：固定資産投資(9月)	★★	+5.5%	+5.5%	年初来前年比
10月19日(土)	—				
10月20日(日)	—				

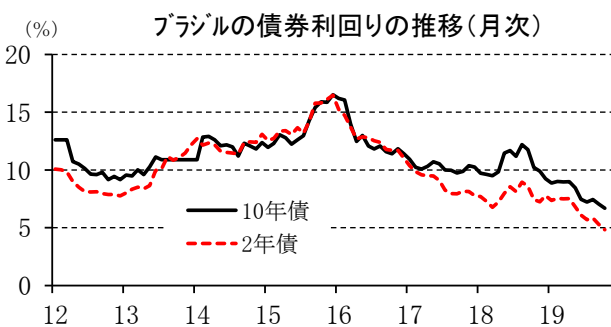
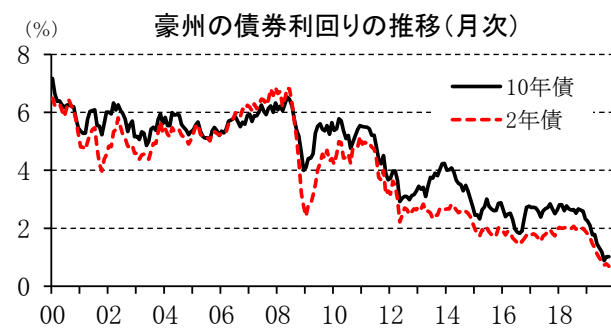
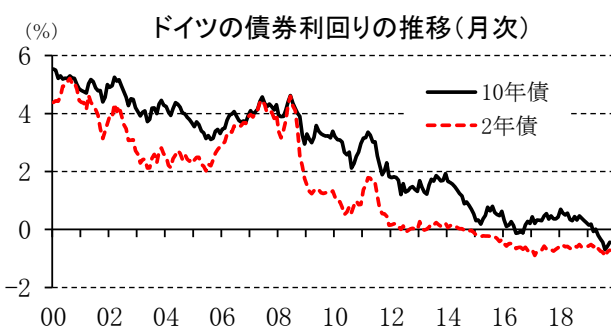
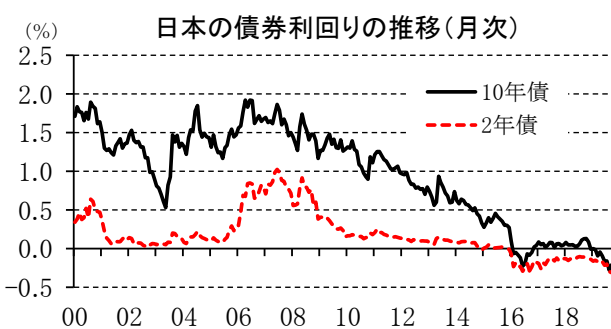
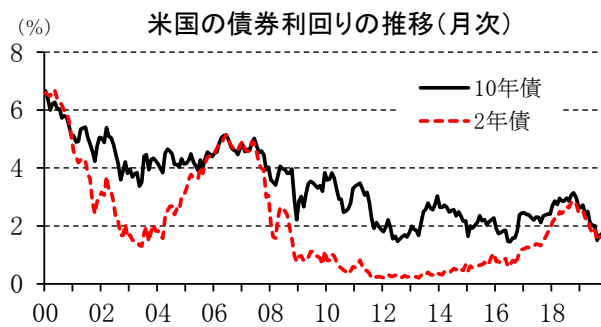
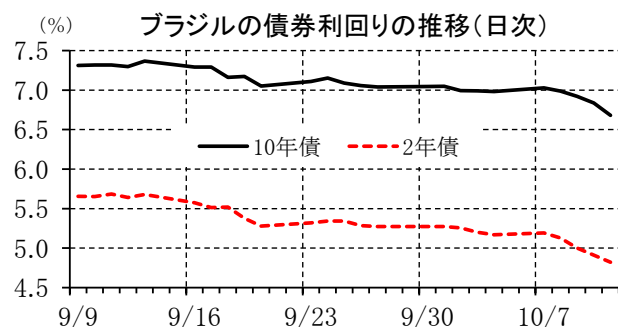
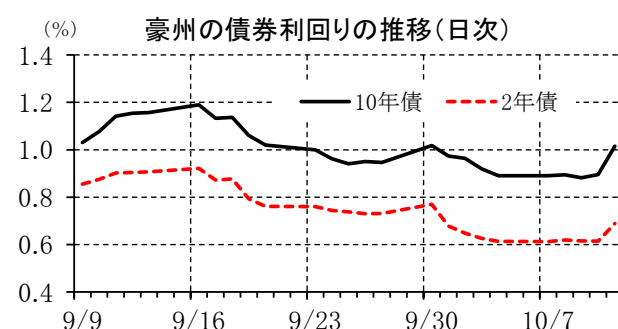
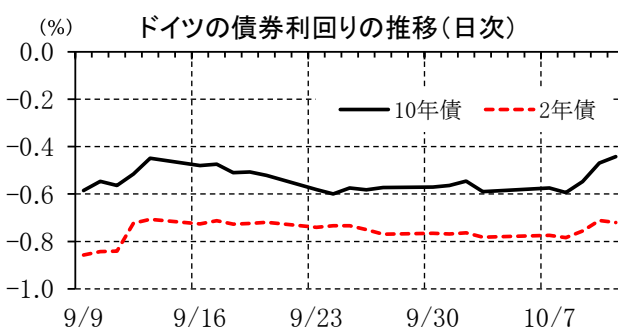
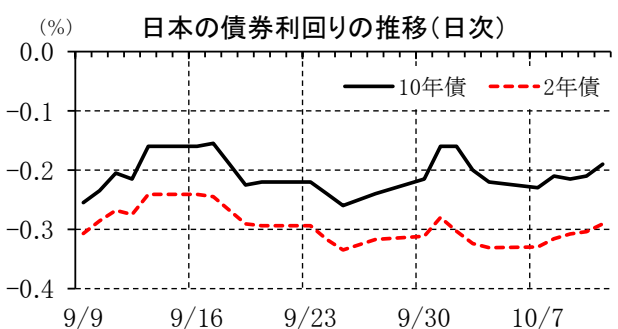
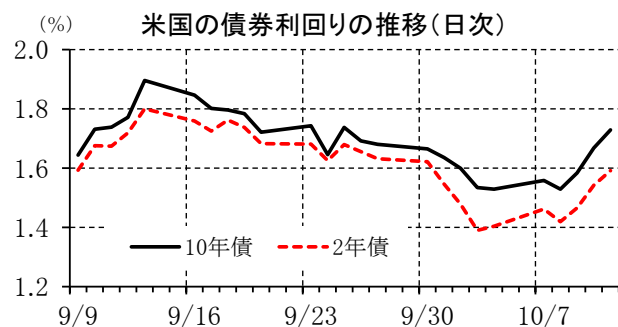
(注) 市場コンセンサスは各種ベンダー調査に基づく。注目度は筆者。

## その他の注目イベント・材料

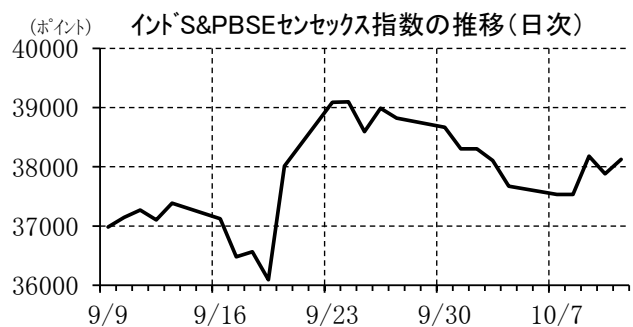
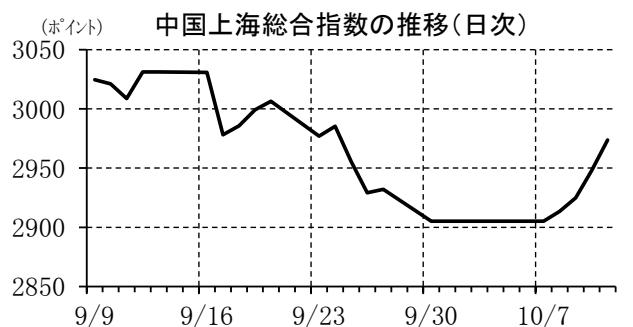
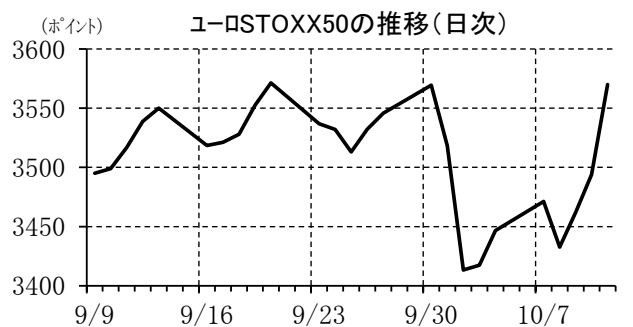
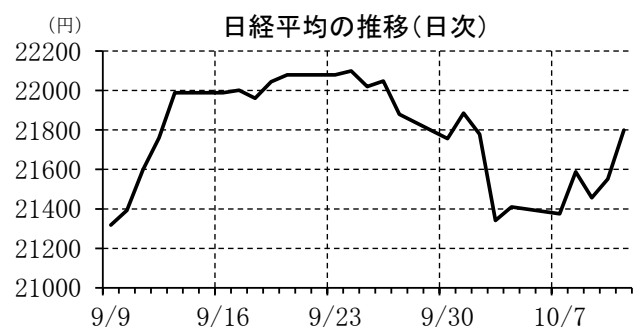
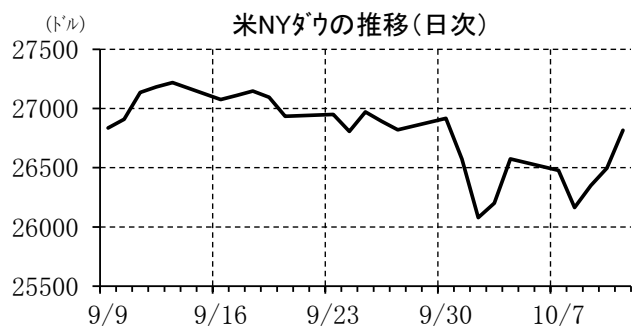
発表日	イベント	注目度	備考
10月14日(月)	APEC：財務相会合(～10/15)		
	英国：女王演説、議会新会期		
	ユーロ：デギントスECB副総裁講演	★	
	英国：カンリフBOE副総裁講演		
10月15日(火)	日本：日銀地域経済報告(さくらレポート)	★	
	英国：カーニーBOE総裁議会証言	★	
	WTO：一般理事会(～10/16)	★	
	米国：2020年大統領選挙民主党候補者討論会	★★	
	IMF世界経済見通し	★★	
10月16日(水)	ユーロ：ドイツ、オランダ、フランス中銀総裁講演		
	英国：カーニーBOE総裁講演	★	
	ユーロ：レーンECB理事講演	★	
	米国：ペーゾジャック	★★★	
10月17日(木)	EU：欧州首脳会議(～10/18)	★	
	ユーロ：フランス中銀総裁ら講演	★	
	米国：NY連銀総裁講演	★	
10月18日(金)	日本：月例経済報告		
	米国：対EU報復関税発動	★	
	IMF・世銀年次総会(～10/20)	★	
10月19日(土)	英国：EU離脱期限の延期要請を義務づけられる日	★★★	
10月20日(日)	スイス：総選挙		

(注) 各種報道等による。注目度は筆者。

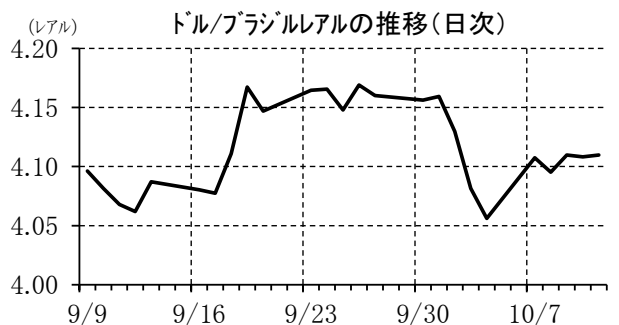
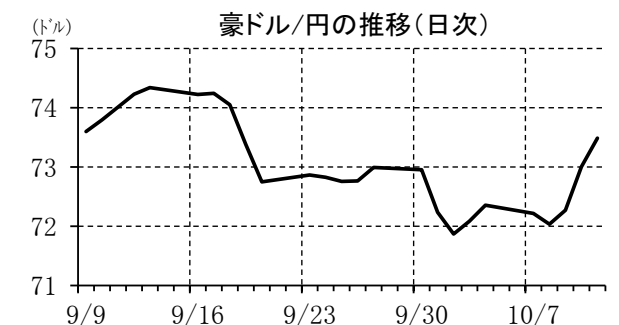
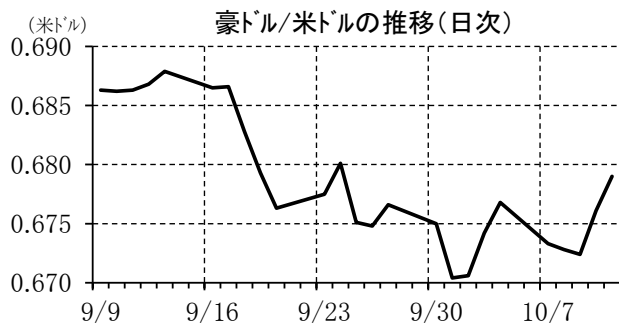
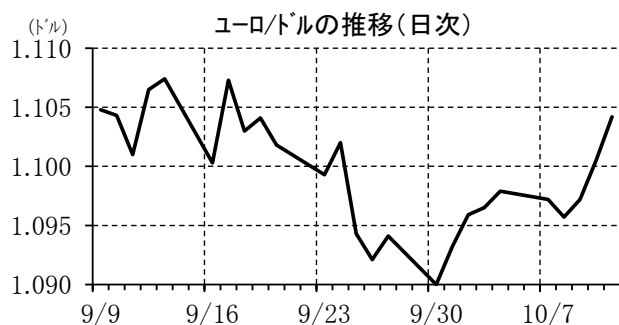
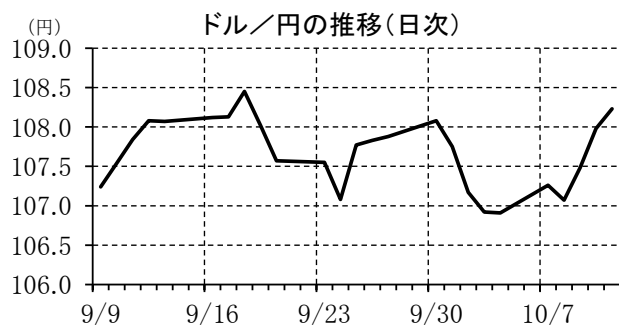
## 【債券利回り】



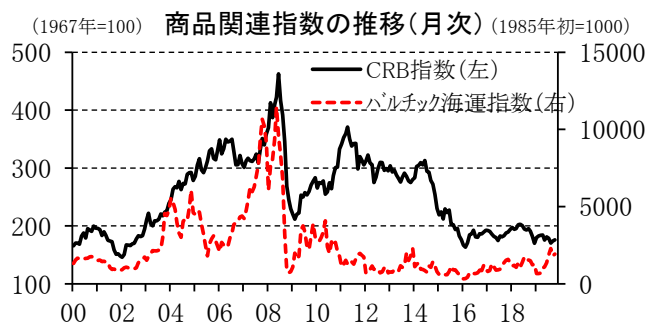
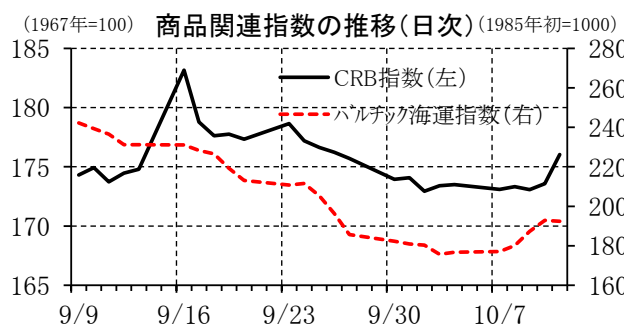
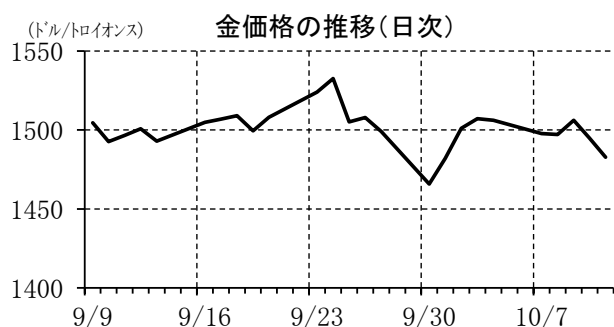
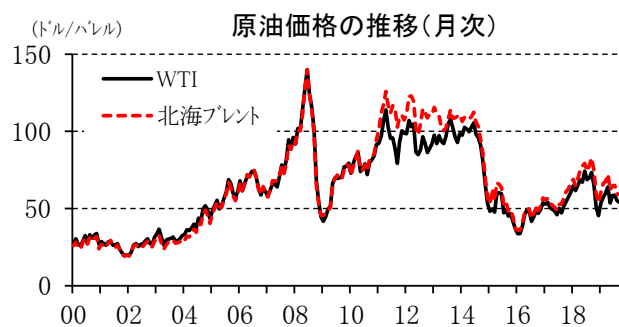
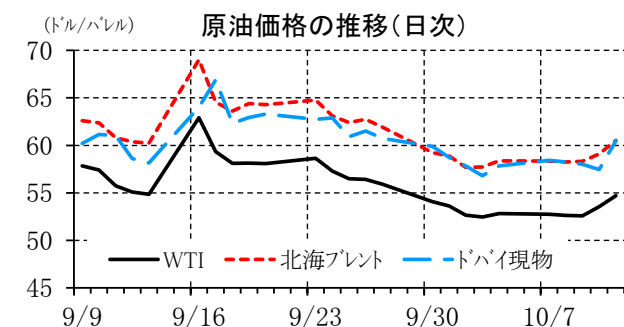
## 【株価指数】



## 【為替相場】



## 【商品市況】



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。